



コーラーラブより定期発行される機関誌“DIRECTION”から、ダンサー・コーラーの皆様のお役に立つ内容の記事を選び、翻訳・抄訳化し紹介しております。

DIRECTION Vo.41 No.5 抄訳

①コーラーラブ会長 ペアリー・クラスパー

前号に引き続き議論を呼びそうな「コンペティションとテスト」についてです。皆様から思慮深く、洞察に満ちた反応があり本当にうれしく思っています。

1) 「テスト」という言葉は最善の言葉ではなかったようです。感情的に重荷にならないような言葉、例えば、確認、照合、評価、等がいいようです。

2) その理由は、「テスト」という言葉は「楽しい」という言葉に繋がらないからで、「コンペティション」ならば、参加することが楽しくなるように創造力を働かせさえすれば、ダンサーのスキルを確認または測定するための楽しい方法を数多く考え出すことができると確信しています。まずこのことを皆さんで考えましょう。

3) 私たちは新しいダンサーを募集する場合、多くの問題を抱えています。そこで既存メンバーのテストを「ダンスで人々が楽しみそして成功を見つけられるようなもの」と考えてみましょう。現在、MS、プラス以上に移行するダンサーのかなりの割合は、十分なスキルを欠いているように見えます。元もと人数が少ない中で、辞めてゆく人を引き留めることはできないと感じていました。

辞めてゆく人を止めるためにプラス以上のダンスに加わりたい人に早めに対応してきたことは、従来のダンスプログラムの標準を維持しようと努力していたときに比べると、おそらくダンサーの数を減らすことになっていたのでしょう。ダンスの標準レベルを下げる事で、我々は、そのフロアで最強の力量を発揮できるダンサーの多くを逆に遠ざけることになってしまったのでしょう。

重要な点は、ダンスの基本技術を磨き、定期的楽しむことができるよう、基本的なダンスプログラムを決めるということです。

最近の調査から、コンペティションに関する面白い情報が明らかになりました。私たちは「パズルを解くように正しくゲットアウトする」ダンスの方が競争を引き起こしやすい、と想像したと思いますが実はそうではなく、コンペティションの一般的な競争要素は、スタイル、タイミング、外観、提示の仕方（プレゼンテーション）に関するものでした。又、これには若者が参加しており、

これがスクエアダンスに関心を持つヒントになるかもしれない、ということが分かりました。このような情報が幅広くみなさんに受け入れられるのは難しいと思いますが、多くの変革と実験が実際に行われている、ということはよいニュースです。何かこのような新しいことを試みているなら、どんなことをやっておられるか、またその進行状況をお知らせください。

②前会長 エルマー・シェフィールド

過去の記事の大半は、変化の必要性について述べられてきました。変化がなければ、全く同じ状態が続きます。私たちは長年、素晴らしい活動を大きく変化させる必要もなく楽しんできましたが、今、私たちは岐路に立たされています。ちょっとでも変化を起こして前進するか？ それともいつもと同じように続けて同じ道を歩み同じ結果を招くのか？ それは皆さん次第です。

多くのクラブではその数がゆっくり落ち始めるに気づきました。あまり心配していませんでしたが、ついにクラブメンバーは初心者講習会が必要だと言いました。クラスを始めることをすべての友人伝えるように決めました。しかし、人は集まらず、クラスは開催できませんでした。さらに、私たちは、亡くなったり、高齢化したり、興味がなくなったりで、メンバーを失い続けました。

ある時、比較的経験の浅い2カップルが新しい講習会を担当することになりました。彼らはほぼ毎日のように無料の新聞記事に出し、インターネットやFaceBookなど考えつく限りの方法を使って新たな講習会を始めることを宣伝しました。その結果、多くの参加者が集まり、講習会が開催されました。但し、ここから先はプラスダンスに進むことを急がないことです。ただ彼らを楽しませましょう！あなた方のクラブが成長し始め、以前持っていた熱意と楽しみが戻ることに気づくでしょう。

③会員寄稿記事 礼儀について

スクエアダンスにおける礼儀についての意見です。この頃のダンサーは、礼儀が欠落していると感じます。

チップが終わった時の拍手とコーラー・キューアへお礼を言わないことです。幸いにもチップが終わると仲間たちに感謝することはなされています。一般的にはそれぞれの曲またはチップの最後に演技者に感謝を示すのが礼儀ですが、コーラー・キューアにも責任があります。ダンサーに礼儀正しさを向上させるように教える事です。教室で礼儀を失わないよう努力する必要があります。

又、最近最も無礼なのは、どんな理由があるにせよ途中で帰るダンサーです。しかもチップの後、たった30秒しかかからない感謝の意をコーラー・キューアに対して述べないで…。演技者は帰った人に何か無礼をしたのか、ダンサーを楽しませられなかったのか、と感じているかもしれません。チップの後やダンスの終わりに会場を出るとき、コーラー・キューアに拍手をしてありがとうと言いましょ。その行為はあなた自身心地よく、コーラー・キューアも感謝の気持ちを持つでしょう。難しかった

た動作も次のダンスはもっと楽しくなります。やってみてください！きっと気持ちがいいと思います!!

③短縮講習順序に関する文書について

ティム・マリナーとビル・ハリスンが委員長／副委員長となって行った特別委員会が「短縮講習順序」を開発しました。12回／3か月で講習可能としたもの。年に数回の初心者講習も可能となる。コーラーラブのウェブサイトです。

<http://www.callerlab.org/Portals/3/condensed%20teach%20order%20document.pdf>